



島田 淳

(医療法人社団グリーンデンタルクリニック)

『顎関節症の基本知識』

<要旨>

顎関節症は、顎関節や咀嚼筋の痛み、顎関節雑音、開口障害あるいは顎運動異常を主な症状とする障害の包括的診断名です。顎関節症の発症にはいろいろなリスク因子が積み重なり、個人の許容範囲を越えると発症するとされています。リスク因子で重要なのは生活習慣などの行動因子であり、生活指導や運動療法などのセルフケアを中心とした保存療法によりほとんどの症例で症状の改善が期待できることから、現在セルフケアに関わる歯科衛生士の役割が大変重要となっています。本講演では顎関節症に関わるに際して知っておいていただきたい基本知識について解説いたします。

<講演内容>

- I 顎関節症とは
- II 顎関節症治療の進め方

<歯科顎関節症認定歯科衛生士研修カリキュラム>

- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・顎関節症の疫学的特徴を説明できる
- ・顎関節症の発症メカニズムと症候、継発する病態を説明できる

<略歴>

- 1987年 日本大学歯学部卒業
- 1991年 日本大学大学院歯学研究科(補綴学専攻)修了
- 1991年 日本大学歯学部助手(補綴学教室局部床義歯学講座)
- 1995年 日本大学助手(補綴学教室局部床義歯学講座)
- 1999年 東京歯科大学講師(スポーツ歯科研究室)
- 2005年~ 医療法人社団グリーンデンタルクリニック理事長
東京歯科大学非常勤講師(スポーツ歯科研究室)
- 2008年 神奈川歯科大学非常勤講師(かみあわせリエゾン診療科)
- 2017年 神奈川歯科大学臨床教授(包括的咬合機能回復外来)
- 2020年 神奈川歯科大学特任教授(包括的咬合機能回復外来)
- 2023年~ NPO法人 日本・アジア口腔保健機構 副理事長
- 2024年~ 日本大学歯学部非常勤講師(総合歯科分野)

代表的所属学会等:

- 日本顎関節学会(常任理事・専門医・指導医)
- 口腔顔面痛学会(評議員・専門医・指導医)
- 補綴歯科専門医(日本歯科専門医機構認定)
- 日本歯科心身医学会(代議員)



澁谷 智明

(日立製作所京浜地区産業医療統括センタ)

『顎関節症の診察と診断』

<要旨>

顎関節症を診断するには十分な医療面接と適切な診察が必要となります。そのため本講演では、1.顎関節症と間違いやすい疾患を鑑別するポイントは何か、2.医療面接はどのように行えば良いか、3.世界的な顎関節症の診断基準であるDC/TMDを参考にして口腔内外の診察はどう行っていくか、4.画像診断ではどのように撮影して、画像のどこを診ていけば良いか、5.咀嚼筋と顎関節の触診について解説します。

<講演内容>

- I 顎関節症との鑑別診断
- II 質問票
- III 医療面接
- IV 診察:顎関節と咀嚼筋(DC/TMDをベースに)および口腔内
- V 画像検査
- VI 咀嚼筋と顎関節の触診

<歯科顎関節症認定歯科衛生士研修カリキュラム>

- ・医療面接を実施できる(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、生活習慣・習癖、社会・心理的状況、QOL、質問票)
- ・口腔外の診察法を説明できる(顎関節、咀嚼筋、顎運動、その他)
- ・口腔内の診察法を説明できる(歯・歯槽骨、歯列・咬合接触・下顎位、口腔軟組織)
- ・医療安全に沿った診療が実施できる
- ・医療倫理に沿った診療が実施できる
- ・インフォームド・コンセントに沿った診療が実施できる
- ・感染予防対策に沿った診療が実施できる
- ・個人情報保護に沿った診療が実施できる

<略歴>

- 1991年 九州歯科大学卒業
- 1997年 東京医科歯科大学大学院修了(顎顔面外科学分野:歯学博士)
- 1997年 東京医科歯科大学歯学部附属病院医員(顎顔面外科学分野)
- 2002年 九州歯科大学助手(口腔外科学第二講座)
- 2003年 九州歯科大学学内講師(口腔外科学第二講座)
- 2004年~ 日立製作所主任医長 現在に至る

代表的所属学会等:

- 東京科学大学非常勤講師、東京歯科大学非常勤講師、日本大学松戸歯学部兼任講師、九州歯科大学特別研修員、平成横浜病院非常勤医、
- 日本顎関節学会(理事・専門医・指導医)
- 日本口腔外科学会(専門医)
- 日本口腔顔面痛学会(評議員・専門医・指導医)
- 日本歯科心身医学会(代議員・認定医)
- 日本産業衛生学会(幹事・関東地方会幹事・関東産業歯科保健部会長)
- 日本労働衛生研究協議会理事
- 日本いたみ財団 いたみ専門医
- 労働衛生コンサルタント



川上 哲司

(医療法人恒進會 泉北陣内病院歯科口腔外科)

『顎関節症の治療』

<要旨>

歯科衛生士が顎関節症の治療・管理に参加することで治療の効率化、治療の質の向上が期待できますので、歯科衛生士の役割は大きくなります。

治療・管理目標を理解し説明すること、生活指導、習癖の指導を行うこと、理学療法を理解し、指導できること、歯科医師の指示のもと薬物療法の服薬注意ができること、オクルーザルアプライアンス療法の使用法や清掃法を指導できること、について解説します。

<講演内容>

顎関節症の治療および管理を行うために必要な知識、技能、態度について

<歯科顎関節症認定歯科衛生士研修カリキュラム>

- ・各病態に対する治療・管理
- ・生活指導, 習癖の指導
- ・理学療法
- ・薬物療法
- ・オクルーザルアプライアンス療法

<略歴>

- 1984年3月 神奈川歯科大学歯学部卒業
- 1984年4月 奈良県立医科大学附属病院臨床研修医(口腔外科)
- 1986年4月 奈良県立医科大学附属病院医員(口腔外科)
- 1993年5月 奈良県立医科大学助手(口腔外科学講座)
- 1996年1月 文部科学省在外研究員(アメリカ合州国カリフォルニア大学ロサンゼルス校)
- 1998年4月 奈良県立医科大学講師(口腔外科学講座)
- 2016年4月 奈良県立医科大学非常勤講師(口腔外科学講座)
社会医療法人社団田北会田北病院歯科口腔外科部長
- 2024年4月 社会医療法人社団田北会田北病院歯科口腔外科嘱託医
- 2025年4月 医療法人恒進會泉北陣内病院歯科口腔外科

代表的所属学会等:

- 日本顎関節学会(専門医・指導医)
- 日本口腔外科学会(専門医・指導医)
- 日本睡眠歯科学会(評議員・認定医・指導医)
- 日本口腔顔面痛学会(専門医・指導医)
- 日本口腔科学会(専門医・指導医)
- 日本小児口腔外科学会(評議員・認定医・指導医)
- 日本歯科麻酔学会(認定医)



佐藤 文明

(佐藤歯科医院今戸クリニック)

『顎関節症のチームアプローチ』

<要旨>

顎関節症患者に保存的な基本治療を行うことで、痛みの減少や顎機能の改善が期待されます。チームとして基本治療を成功させるためには歯科衛生士の関わりは不可欠であり、日常生活指導、顎関節症症状を増悪させるリスク因子のコントロール、運動療法の管理など患者さんのアドヒアランスを上げるためのコミュニケーション能力が要求されます。本講演では歯科衛生士がいかに顎関節症の治療・管理を行なっていくかについて解説いたします。

<講演内容>

- I 基本治療における歯科衛生士の関わり方
- II 認定歯科衛生士に期待すること

<歯科顎関節症認定歯科衛生士研修カリキュラム>

- ・医療面接を実施できる(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、生活習慣・習癖、社会・心理的状況、QOL、質問票)
- ・各病態に対し治療・管理目標を理解し説明できる
- ・生活指導、習癖の指導を行える
- ・理学療法を理解し、指導できる
- ・オクルーザルアプライアンス(スプリント)療法の使用法や清掃法を指導できる
- ・医療安全に沿った診療が実施できる
- ・医療倫理に沿った診療が実施できる
- ・インフォームド・コンセントに沿った診療が実施できる
- ・個人情報保護に沿った診療が実施できる

<略歴>

1989年3月 北海道大学歯学部卒業
1989年4月 東京医科歯科大学歯学部第一口腔外科入局
1992年3月 佐藤歯科医院開設
2004年4月 東京医科歯科大学大学院総合研究科顎顔面外科学分野非常勤講師
2007年3月 東京医科歯科大学大学院 歯学博士取得
2016年4月 佐藤歯科医院今戸クリニック移転開設
2022年4月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野臨床教授
2024年10月 東京科学大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野臨床教授
現在にいたる

代表的所属学会等：

日本顎関節学会 (理事・専門医・指導医・歯科衛生士活動推進委員会委員長)
日本口腔インプラント学会 (専門医)